

2023年版愛知県中学校女子適用規則

(公財)日本体操協会制定 採点規則 2022年版および2022年版変更規則Iを以下のように部分変更して適用する。

※マークの大きさについて(全体の面積は最低30cm²とする)の減点は移行処置として本年度のみ適用しない。

<短い演技>

演技の実施と芸術性の減点がなされるEスコアの最高点は以下の通り：

- ・ 10.00 もし6技以上の実施であれば
- ・ 6.00 もし5技の実施であれば
- ・ 5.00 もし4技の実施であれば
- ・ 4.00 もし3技の実施であれば
- ・ 3.00 もし2技の実施であれば
- ・ 2.00 もし1技の実施であれば
- ・ 0.00 もし技の実施がなければ

<A (0.10)の難度を認められる要素>

以下の要素は1技として数えられるが、構成要求、組み合わせ点、シリーズボーナスには使用できない。また、平均台において横向きでのジャンプを実施しても1つ高い難度は与えられない。

平均台 ・伸身とび ・かかえ込みとび ・前転
ゆか ・前方倒立回転 ・側方倒立回転 ・後方倒立回転

<第8章 一般欠点と減点表>

ー前向きでない構成(段違い平行棒、平均台、ゆか) -0.10/0.30/0.50

<跳馬>

10.2 助走

選手が跳躍板や器械に触れていなければ、3回の助走が許される。

(余分な助走の減点は適用されない)

10.4 種目特有な要求

2回の跳躍を実施し、良い方のスコアを有効点とする。

10.6 種目特有な実施減点 ※グループ1の跳躍技のみに適用

支持局面 ・支持が長い -0.10/0.30/0.50

第2空中局面 ・ダイナミックさに欠ける -0.10/0.30/0.50

前転とびで頭もしくは背中がつく -3.00まで

切り返し系/台上前転 跳躍番号 0.00 Dスコア 0.50 Eスコア 6.00 から採点

<7.4.3 終末技ボーナス>

段違い平行棒、平均台、ゆかにおいて、B 難度またはそれ以上の終末技に対して以下のボーナスが与えられる。

- ・ B の終末技 +0.30
- ・ C の終末技 +0.50
- ・ D 以上の終末技 +0.70

* Dスコアに加算される。

* 大過失のある実施にもボーナスが与えられる。

<構成要求>

—段違い平行棒

1. 高棒から低棒へ移動する空中局面を伴う技
2. 空中局面を伴う技（構成要求1とは兼ねられない、終末技を除く）
3. 異なる握り（後ろ振り上げ、開始技と終末技を除く）
4. 360度以上のひねりを伴う空中局面を伴わない技（開始技を除く）

—平均台

1. 180度の開脚（前後／左右）または左右開脚屈身のリープ、ジャンプを1つは含む、少なくとも2つの異なるダンス系の技からなる組み合わせ
2. ターン（グループ3）または接転系の技／旋回
3. 1つの空中局面を伴う技を含む、少なくとも2つの技からなるアクロバット系シリーズ（同一技でもよい）
4. 方向の異なる（前方／側方と後方）アクロバット系の技

—ゆか

1. 180度の開脚（前後／左右）または左右開脚屈身の跳躍技を1つは含む2つの異なるリープまたはホップ（難度表にある）の直接または間接（ランニングステップ、小さなリープ、ホップ、シャッセ、シェネターンが入った）の組み合わせでの移動
2. ひねり（1回ひねり以上）を伴う宙返り
3. 2回宙返りまたは2つの異なる宙返りを含む1つのアクロライン
4. 同じまたは異なるアクロラインで後方宙返りと前方宙返り（片足踏み切りの宙返りは除く）

<平均台、ゆか共通>

芸術性と構成の減点

- ・ 身体の姿勢が悪い（頭部、肩の位置、胴体） -0.10／0.30
- ・ 大きさ不十分（身体を最大限に使った動き） -0.10／0.30
- ・ つま先が伸びない／足が緩む／足が内向き -0.10／0.30

2022年2月 制定
2023年3月25日 改定